

研究拠点形成事業
平成27年度 実施報告書
B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	京都大学大学院地球環境学堂
(ベトナム) 拠点機関：	フエ大学
(ベトナム) 拠点機関：	ハノイ理工科大学
(ベトナム) 拠点機関：	ダナン工科大学
(ラオス) 拠点機関：	チャンパサック大学
(カンボジア) 拠点機関：	王立農業大学
(タイ) 拠点機関：	コンケン大学

2. 研究交流課題名

(和文)：インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成
(交流分野：地球環境学)

(英文)：Formulation of the cooperation hub for global environmental studies in Indochina region
(交流分野：Global Environmental Studies)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/JSPS/>

3. 採用期間

平成25年4月1日～平成28年3月31日
(3年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：京都大学大学院地球環境学堂

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：地球環境学堂・学庁長・藤井滋穂

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：地球環境学堂・教授・藤井滋穂

協力機関：

事務組織：京都大学研究国際部研究推進課、地球環境学堂・総務掛

本部構内(理系)共通事務部・外部資金掛

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Hue University

(和文) フエ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Hue University of Agriculture and Forestry・Associate Professor /
Rector・LE Van An

(2) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Hanoi University of Science and Technology

(和文) ハノイ理工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

School of Environmental Science and Technology・Associate Professor /
Dean・HUYNH Trung Hai

(3) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Danang University of Technology

(和文) ダナン工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Faculty of Environment・Associate Professor / Dean・TRAN Van Quang

(4) 国名：ラオス

拠点機関：(英文) Champasak University

(和文) チャンパサック大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Champasak University・President・Bounmy PHONESAVANH

(5) 国名：カンボジア

拠点機関：(英文) Royal University of Agriculture

(和文) 王立農業大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Royal University of Agriculture・Rector・NGO Bunthan

(6) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Khon Kaen University

(和文) コンケン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

School of Agriculture・Lecturer・Thepparit TULAPHITAK

協力機関：(英文) Asian Institute of Technology

(和文) アジア工科大学

協力機関：(英文) Burapha University

(和文) ブーラパー大学

協力機関：(英文) Chulalongkorn University

(和文) チュラロンコン大学

協力機関：(英文) Kasetsart University

(和文) カセサート大学

協力機関：(英文) Mahidol University

(和文) マヒドン大学

5. 研究交流目標

5-1. 全期間を通じた研究交流目標

急激な変容を遂げるアジア地域の開発途上国では、気候変動に伴い頻発する自然災害、都市域と村落域の不均衡な発展、それに付随する貧困問題、都市居住環境の悪化、自然環境の劣化、地域レジリアンスの低下など、種々の問題が複合的かつ複雑に錯綜し広範囲に深刻化している。この地球レベルと地域レベルの環境問題に対して、アジアの研究者が協働し、学際的・国際的学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を探求するとともに、具体的問題を包括的に理解し、実践的研究から得られた知見を社会に還元・実践することが求められている。

京都大学大学院地球環境学堂・学舎は、従来の学問領域にとどまらず、異分野領域を融合あるいは既存専門分野の枠組みを超えた研究活動をおこない、地球環境問題解決のための学問体系確立を目指している。同時に、アジアにおける国際協働に重点を置き、特にベトナムではハノイ理工科大学、フエ大学(フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学にて海外教育研究拠点オフィスを設置し、調査研究、人材育成、実践活動の実績を蓄積してきた。現在、その活動はベトナムからチャンパサック大学(ラオス)、王立農業大学(カンボジア)、コンケン大学(タイ)など、インドシナ地域の活力ある大学との協働へと拡大しつつある。しかし、ベトナムをはじめインドシナ地域の大学は社会経済発展に特化した単科大学が多く、異分野融合がとりわけ重要な地球環境課題の解決に向けては、各大学の協働が必要不可欠である。また、インドシナ地域は地勢的、文化社会的に共通する部分も多く、同地域の環境問題解決に資する知識・技術・経験則を共有することは非常に重要である。実践技術やアプローチを探求することが求められる。

本事業では、多くの協働連携を実施してきたベトナムの3大学(ハノイ理工科大学、フエ大学(フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学)をインドシナ地域のハブと位置付け、当該地域における地球環境学連携拠点を形成し、教育・研究・実践の情報共有化、学際・国際的な人材交流の促進と共同研究の推進に資するインドシナ広域ネットワーク構築

を目指す。具体的には、①日本側拠点機関と6海外拠点機関（ベトナム3ハブ拠点、インドシナ3準ハブ拠点）大学の研究者による共同研究チームを形成し、インドシナ地域に共通する環境問題をテーマに実践的研究を展開し、②ベトナムのみならずインドシナ地域への広域連携の拡大を見据え、学問領域、国家領域を超えた地球環境学連携のモデルを構築する。また、③インドシナの地域の「地球環境学」の確立を視野に入れた学際的、実践的研究を蓄積する情報基盤を整備する。

5-2. 平成27年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

インドシナ地域における地球環境学連携拠点の整備・運営を円滑に実施するため、平成25年度からこれまで月一回の「アジアプラットフォーム部会」（提案時は「地球環境学連携拠点委員会」）を運営してきた。この部会は、各関係者間の情報共有や活動調整をおこなう点で非常に効果的であり、平成27年度においても継続的な部会運営に努める。本事業の活動は以下の3軸構成としており、平成27年度の具体的活動目標を付記する。

①「フィールドの共有・相互理解に関するワーキンググループ」

ベトナム拠点連携地域あるいはインドシナ広域連携地域に研究フィールドを設定し、ミニプロジェクトワーク、学際・国際共同研究等の実践的活動を生み出す。

→

平成27年度の目標：現在実施しているいくつかのミニプロジェクトワークを学際・国際共同研究に発展させる。また、今年度もベトナム若手研究者助成を拡大企図し、新たなミニプロジェクトワークの活動を促進する。

②「人的資源の連携に関するワーキンググループ」

異なる分野・地域からの研究者の連携を推進するため、セミナー、ワークショップ等の人的交流を促進し、人的資源の連携基盤を築く。

→

平成27年度の目標：7月末に予定しているダナン市の第3回シンポジウムにおいて、教育・研究の連携基盤の強化をより図る。また、個別のワークショップも積極的に推進する。これらに加え事業修了後の各活動の維持促進の方法についても議論する。

③「情報資源連携ワーキンググループ」

インドシナ地域で共有すべき情報資源を効果的に共有・活用するための刊行物・Webデータベースなどを整備する。

→

平成27年度の目標：毎年1回開催するセミナーでは、国際的・学際的な研究教育のこれまでの取り組みとこれからの取り組み、関係研究者のプロファイルについて、予稿集にとりまとめ紹介してきた。今年度も引き続き活動記録として整理集約し、情報提供に努める。また、アジアプラットフォーム部会で定期的に取りまとめている SANSI Newsletter による活動記録と情報発信を充実させ国内外への周知を引き続き図る。

<学術的観点>

本事業では、インドシナ地域における近年の都市化や市場経済化に起因する「暮らしと環境」に関わる複合的問題が様々な局面で顕在化している認識のもと、いくつかのミニプロジェクトワークを実施している。例えば、①ハノイ市農村部およびフエ市都市部をフィールドとした水利用・排水・廃棄物管理に関する環境衛生調査、②フエ京城都市における再開発計画と地域住民の居住環境調査、③ベトナム版農業生産工程管理 VietGAP の取り組み、④ベトナム中部の少数民族集落における土地利用と生活質の変遷、⑤ベトナム中部の少数民族集落における伝統的集会施設の維持継承に関する調査などである。いずれも衛生環境改善、居住環境向上、食の安全確保、農村部生計向上、地域文化の継承などインドシナ地域の環境問題として共有できる点で意義がある。平成 27 年度は、これらの調査研究活動を継続的におこなうとともに、シンポジウム等で環境問題解決への方向性を議論する。

<若手研究者育成>

平成 27 年度も継続的に若手研究者の連携促進を図る。研究セミナー、遠隔講義システムを適宜利用し、研究者同士の相互理解、フィールドの相互理解、ミニプロジェクトワーク立案、共同研究立案等の関わりの中でベトナム・日本の若手教員・大学院生の育成機会を得る。これらの活動促進のため、ベトナム若手研究者助成を企図し、日本人研究者との協働を前提に研究プロジェクトを進める。平成 26 年度は、20 件程度の助成をおこなったが、平成 27 年度においても同程度以上の案件を採用する(※1)。本助成は、単なる研究奨励金ではなく、本事業の趣旨であるインドシナ地域の環境問題解決に関連して、若手研究者が具体的研究テーマを提案し、日本人共同研究者・アドバイザーとともに研究を推進することで、環境関連研究のレベルアップ、国際・学際的な共同研究の推進を次世代へと広げるものである。また、これらの研究成果は、毎年本事業で開催する国際シンポジウムで発表することで、ベトナム以外のインドシナ地域研究者とも情報を共有し、将来の連携拡大を図る。具体的には、7月下旬に開催予定の第3回シンポジウムにおいて、ポスター発表による研究発表、及びインドシナ地域研究者との情報共有と意見交換をおこなう。

※1：本若手研究者助成は、事業の研究交流目標に掲げる「急激な変容を遂げるアジア地域の開発途上国では、気候変動に伴い頻発する自然災害、都市域と村落域の不均衡な発展、それに付随する貧困問題、都市居住環境の悪化、自然環境の劣化、地域レジリアンスの低下など、種々の問題が複合的かつ複雑に錯綜し広範囲に深刻化している。この地球レベルと地域レベルの環境問題に対して、アジアの研究者が協働し、学際的・国際的学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を探求するとともに、具体的問題を包括的に理解し、実践的研究から得られた知見を社会に還元・実践することが求められている。」の趣旨に沿った具体的な研究内容(日本人研究者との共同研究を前提とする)を募集し、書類選考や面接により助成対象研究を決定する。また、研究期間後には成果レポートを提出する。

6. 平成27年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

6-1 研究協力体制の構築状況

インドシナ地域における地球環境学連携拠点の整備・運営を円滑に実施するため、今年度も月1回の「アジアプラットフォーム部会」（提案時は「地球環境学連携拠点委員会」）を運営し、各関係者間の情報共有や活動調整に関して良く機能した。

① フィールドの共有・相互理解に関するワーキンググループ

ベトナム拠点連携地域で共同研究を積極的に展開し、ミニプロジェクトワーク、学際・国際共同研究による活動成果を得ている。ダナン大学で開催した本事業の第3回国際シンポジウムでは、全43題の研究発表の内、本事業参加研究者による研究成果は36題となっている。また、日本とベトナム研究者による学祭・国際共同研究は36題中25題もあり積極的な共同が行われている。

② 「人的資源の連携に関するワーキンググループ」

今年度も多様な分野・地域からの研究者の連携を推進するため、7月にはダナン大学での国際シンポジウム、12月には京都大学で招聘セミナーを開催し、人的交流の促進を図った。7月(27日)の国際シンポジウムでは、本学や拠点大学の研究者、学生その他、本プログラムに関心をもつベトナム国内やアジア地域の大学関係者、日本の他大学関係者や企業関係者、ベトナム大使館などを含め、合計134名が参加した。他日(7月29日)には今後の研究連携強化に関する個別のワークショップを開催(フエ、グリーンホテル)し、ベトナム国内の他大学との共同研究推進、アジア地域大学への拡大連携、研究テーマをより明確化した共同研究など、活発な意見交換が行われた。12月のセミナーでは、拠点大学であるハノイ理工科大学、フエ大学、ダナン大学、チャンパサック大学、カンボジア王立農業大学から研究者を招聘し、他プログラムの海外招聘研究者と合わせて、主に教育連携に関する意見交換をおこなった。これらの意見やアイデアを参考にしながら、次期 JSPS 事業提案へ集約し平成28年度からの3カ年事業として継続採択された。

③ 情報資源連携ワーキンググループ」

7月ダナン大学での国際シンポジウムにおいて、各研究者の自己紹介冊子、研究成果を報告する予稿集を配布した。また、地球環境学堂で定期的に刊行している SANSAI Newsletter を今年度も3回印刷配布、Web 発信した。ニューズレターは適宜英語記事も掲載する国際化に努め、昨年度のフエ大学に引き続き、今年度は連携・協力大学であるハノイ理工科大学、ダナン大学、マヒドン大学の活動内容を記事として紹介した。年度末には、国際シンポジウムでのプレゼンテーション他全資料を資料として総括整理した。

6-2 学術面の成果

本事業では、インドシナ地域における都市域、農村域、自然域の複合的な環境問題に対して、以下のミニプロジェクトワークを国際共同研究として実施した。①ハノイ市農村部およびフエ市都市部をフィールドとした水利用・排水・廃棄物管理に関する環境衛生調査、

②フエ京城都市における再開発計画と地域住民の居住環境調査、③ベトナム版農業生産工程管理 VietGAP の取り組み、④ベトナム中部の少数民族集落における土地利用と生活質の変遷などである。いずれも衛生環境改善、居住環境向上、食の安全確保、農村部生計向上などインドシナ地域の環境問題として共有できる点で意義がある。具体的な成果は、様式 7-2 に記載する研究活動の内、①に関しては論文リスト No. 6、7、15、16、17、24、27、②に関しては論文リスト No. 25、③に関しては論文リスト No. 21、23、④に関しては論文リスト 4、11 などが挙げられる。いずれの研究活動も本事業に参加する日本・ベトナム研究者が中心となり学祭・国際共同研究を推進している。

6-3 若手研究者育成

昨年度に引き続き、研究セミナー、遠隔講義システムを適宜利用し、研究者同士の相互理解、フィールドの相互理解、ミニプロジェクトワーク立案、共同研究立案等の関わりの中で、ベトナム・日本の若手教員・大学院生の育成機会をつくるよう努めた。ベトナム・ダナンで開催した国際シンポジウムでは、ポスター発表や口頭研究発表など若手研究者に成果発表できる機会を提供し、日本、及びインドシナ地域の若手研究者との情報共有や意見交換を行うことができた。また、平成 26 年度に実施したシーズ研究助成を受けたフエ大学 7 件、ハノイ理工科大学 6 件、ダナン大学 8 件、計 21 件の研究報告をおこない情報共有を図った。シーズ研究助成は、ベトナム人若手研究者の研究実施、成果報告の機会として評価が高く、今年度も上記 3 大学で実施し、フエ大学 5 件、ハノイ理工科大学 6 件、ダナン大学 11 件、計 22 件の研究に対して助成をおこなった。

平成 27 年度シーズ研究助成リスト

番号	大学	助成者	研究タイトル
1	Hanoi	DO Khac-Uan	Techno-economic assessment of alkalis sludge disintegration to enhance sludge management for wastewater treatment plants in Vietnam
2	Hanoi	LY Bich Thuy	Synthesis of hydrotalcite based beads to remove As in ground water after sand filtration
3	Hanoi	NGUYEN NGOC TUE	ASSESSING THE IMPACTS OF LANDUSE AND CLIMATE CHANGES ON STREAMFLOW AND SEDIMENT RUNOFF IN CAU RIVER BASIN IN MOUNTAINOUS NORTHERN VIETNAM
4	Hanoi	TRAN Thanh Chi	Investigation of water content affecting hydrocarbon contaminant degradation during soil bioremediation
5	Hanoi	Dieu Anh VAN	Studies on distribution and fractionation of heavy metals in sediment of Cau River, Hanoi, Vietnam
6	Hanoi	Vo Thi Le Ha	Health Risk assessment of polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) in road dust of Hanoi metropolis, Vietnam
7	Hue	DANG THI NHU Y	Environmental factors influencing chlorophyll concentration in some lakes and canals in Hue city
8	Hue	LE THI QUYNH ANH	The role of microcredit program of Women Association in livelihoods improvement and women empowerment in Huong Van commune, Huong Tra district, Thua Thien Hue province
9	Hue	NGUYEN NGOC TRUC NGAN	PERFORMANCE OF H ₂ O ₂ - AERATED TRICKLING BIOFILTER FOR TREATMENT OF SYNTHETIC WASTEWATER CONTAINED HUMIC ACID
10	Hue	TRAN THANH DUC	Land use types and soil characteristics in Huong Vinh commune, Huong Tra town, Thua Thien Hue province, central Vietnam
11	Hue	TRAN THI THU HONG	Effect of fermented feed and supplementation of probiotics in dietary on growth performance and feed efficiency of local chicken under small household condition
12	Danang	HOANG Ngoc AN	EVALUATE COASTAL WATER QUALITY TO HEALTH OF RESIDENTS IN LIEN CHIEU COASTAL AREAS IN DANANG BAY CITY
3	Danang	NGUYEN PHUOC QUY AN	RESEARCH ON MUNICIPAL SOLID WASTE TREATMENT TOWARDS TO GREENHOUSE GAS EMISSIONS REDUCTION
14	Danang	Dang Thi Doan	THE CALCULATION OF CH ₄ EMISSION FROM THE MANURE MANAGEMENT SYSTEM IN SWINE FARMS IN DA NANG CITY
15	Danang	PHAN Thi Kim NGA	HE MUNICIPAL WASTEWATER CHARACTERISTICS FROM COMBINED DRAINAGE SYSTEM - A CASE STUDY AT DANANG CITY
16	Danang	VO Dinh PHO	STUDY ON COLLECTING AND TREATING SLUDGE FROM MUNICIPAL WASTEWATER TREATMENT PROCESS BY ANAEROBIC TECHNOLOGY COMBINED WITH RECOVER BIOGAS
17	Danang	Dam Minh Anh	Study on the correlation between heavy metal accumulation in soil and some species earthworms Pheretima spp. at some areas in in Da Nang, Vietnam
18	Danang	PHAM PHU Song Toan	RESEARCH ON APPLICATION OF 3R (REDUCE-REUSE-RECYCLE) FOR SOLID WASTE MANAGEMENT IN THE DORMITORY OF DANANG UNIVERSITY
19	Danang	Tran Ngoc Son	DESIGNING EXTRACURRICULAR ACTIVITIES IN SONTRA NATURE RESERVE TO IMPROVE THE EFFECT OF TEACHING ENVIRONMENT EDUCATION ON SECONDARY SCHOOL STUDENTS IN DANANG CITY, VIETNAM
20	Danang	DOAN CHI CUONG	Assessment of heavy metal pollution in water, sediment and accumulation in food crops due to placer gold mining activities (a case study on placer gold deposits in Phuoc Son District, Quang Nam Province, Vietnam)
21	Danang	HO HONG QUYEN	Solutions to improving microclimate and thermal comfort for energy efficiency in tube houses - Danang city
22	Danang	Le Phuoc Cuong	Survey on displacement of toxic pollutants in geological environment of industrial zone in Danang city, Vietnam via 2D electrical resistivity tomography (ERT)

6-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

本事業では、インドシナ地域の具体的な環境問題を包括的に理解し、実践的研究から得られた知見を社会に還元・実践することも視野に入れている。セミナーでは、ベトナムで活躍する日本の民間企業の人材も参加しており、実践的側面からの意見も多数受けることができた。来年度からも本事業の継続プロジェクト（JSPSアジアプラットフォームによる地球環境学の実践的展開と学術研究基盤の創成）が決まっており、この3年間で蓄積した研究基盤をもとによりアジア広域を対象とした連携展開に発展させる。

6-5 今後の課題・問題点

今後の課題としては、アジア地域に見られる様々な環境問題に対して、本事業で得られた研究成果やアイデアをどれだけ地域社会に実装できるかという点に尽きる。来年度以降の継続プロジェクトに関しても、この点に留意しながら取り組むこととする。

6-6 本研究交流事業により発表された論文等

- (1) 平成27年度に学術雑誌等に発表した論文・著書36本
うち、相手国参加研究者との共著25本
- (2) 平成27年度の国際会議における発表0件
うち、相手国参加研究者との共同発表0件
- (3) 平成27年度の国内学会・シンポジウム等における発表0件
うち、相手国参加研究者との共同発表0件

※別紙にあるよう、本事業のセミナー「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成に向けた第3回国際シンポジウム」におけるポスター発表・予稿集の成果を挙げる。

7. 平成27年度研究交流実績状況

7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) 地球環境学的アプローチによる学際的フィールド研究				
	(英文) Inter-disciplinary field research approaching to global environmental studies				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 藤井滋穂・京都大学大学院地球環境学堂・教授				
	(英文) Shigeo Fujii・Kyoto University Graduate School of Global Environmental Studies・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Tran Van Quang, Da Nang University of Technology,				

	Associate Professor	
参加者数	日本側参加者数	87名
	(ベトナム)側参加者数	123名
	(ラオス)側参加者数	8名
	(カンボジア)側参加者数	10名
	(タイ)側参加者数	46名
27年度の研究 交流活動	<p>昨年度に引き続きベトナム3拠点(ハノイ、フエ、ダナン)を中心にフィールドを共有したミニプロジェクトワークおよび共同研究を日越の研究者・大学院生で進めた。フィールド調査だけでなく、ベトナム3拠点に設置してある遠隔講義システム等を利用して意見交換等を積極的におこなった。また、関係者が集う国際シンポジウムのポスター発表等で研究発表をおこなうことで情報共有を図るとともに、インドシナ地域の参加研究者と当地域で共有しうる都市域、農村域、自然域の複合的な環境課題に関する議論・意見交換をおこなった。また、本事業の最終年度となるため、これまでの活動の総括をおこない、今後の展望・方向性について議論した。</p>	
27年度の研究 交流活動から得 られた成果	<p>若手研究者を中心に積極的な学祭・国際共同研究を進めることができた。最終年度もシーズ研究助成を実施し、ハノイ、フエ、ダナンの各大学から環境関連の各研究に対して、本学研究者が参画することで、経費支援だけでなく、助言や協働の連携を深めた。また、共同研究に対しても、本事業の国際シンポジウムで43題もの環境関連研究を報告することができた。その内、25題は本事業参加者による共同研究活動に基づく成果であった。共同調査フィールドでの議論、遠隔講義システム等を用いた定期的な意見交換を通して、個別の課題解明への探求だけでなく、アジア地域共通の環境課題(都市衛生問題、河川水質汚濁、食の安全性、森林資源劣化、環境教育、自然災害、都市居住環境など)についても認識を相互に深めることができた。この経験は将来の連携をより深めることにも生かされる。また、本事業の活動実績が評価され、平成28年度以降もJSPS継続事業として取り組むこととなっている。</p>	

7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成に向けた第3回国際シンポジウム」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “The Third International Symposium on Formulation of the cooperation hub for global environmental studies in Indochina region”
開催期間	平成27年7月27日～平成27年7月28日(2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ベトナム、ダナン市、ダナン大学
	(英文) Vietnam, Da Nang, Da Nang University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 藤井滋穂・京都大学大学院地球環境学堂・教授
	(英文) Shigeo Fujii・Kyoto University Graduate School of global Environmental Studies・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) Tran Van Quang, Da Nang University of Technology, Associate Professor

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (ベトナム)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	17/ 92
	B.	30
ベトナム 〈人/人日〉	A.	31/ 112
	B.	38
ラオス 〈人/人日〉	A.	1/ 6
	B.	
カンボジア 〈人/人日〉	A.	1/ 3
	B.	
タイ 〈人/人日〉	A.	3/ 12
	B.	
合計 〈人/人日〉	A.	53/ 225
	B.	68

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>地球環境学堂では、インドシナ地域における教育・研究連携に向けた大学間ワークショップ(インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成)を本事業開始までに6か年に渡り計6回行ってきた。本セミナーではこれまでの交流活動をインドシナ広域ネットワークへと発展すべく、関係機関との間で研究者同士あるいは互いのフィールド(研究現場)についての相互理解を深めるとともに、ミニプロジェクトワーク実施と共同研究への展開に向けた情報共有、意見交換をおこない、インドシナ広域への環境問題設定と解決への討議をおこなうことを目的としている。セミナーは毎年度1回各ベトナム連携大学と共催し、本事業の参加研究者だけでなく、本事業に関心をもつ他大学研究者、民間企業研究者、行政関係者も参加し、幅広い情報共有、意見交換をおこなうこととした。</p>
<p>セミナーの成果</p>	<p>3カ年の国際シンポジウムで、本事業参加のインドシナ地域研究者だけでなく、本事業に関心をもつアジア地域の他大学、及び日本他大学の研究者、日本の企業関係者、またJICAベトナム、JSPSバンコクオフィス、ベトナム大使館など、幅広い交流の場をもち相互理解を深めることができた。一つには、インドシナ地域の研究者と本地域で研究活動をおこなう日本の研究者との間で、様々な環境課題に対する研究の取り組みと成果を共有できたことが挙げられる。特にベトナム若手研究者への研究助成により、具体的な研究活動を共時的に共有することができた。また、インドシナ地域で活動する日本企業をセミナーに招聘することで、現地大学研究者とのネットワーク形成、企業活動の周知機会の提供、将来の大学・企業連携の議論をおこなうことができた。以上の内容をJICA、JSPS、大使館の公的機関とも共有することで、今後の活動支援の面でも強化することができた。</p> <p>本シンポジウムの概要は以下の通りである。第1回国際シンポジウム(主催:京都大学、フエ大学、開催日:2013年9月16日、開催地:ホイアン):京都大学、拠点大学の教員、学生、及び本事業に関心をもつインドシナ地域や日本の大学関係者、日本企業関係者を含め約100人が参加。第2回国際シンポジウム(共催:京都大学、ハノイ理工科大学、カントー大学、開催日:2014年9月27-28日、開催地:カントー大学):本学や拠点大学の教員、学生の他、本事業に関心をもつベトナム国内やアジア地域の大学関係者、日本の他大学関係者や企業関係者、JICAベトナムオフィス、JSPSバンコクオフィスなどを含め約90人が参加。第3国際シンポジウム(主催:京都大学、ダナン大学、ダナン理工科大学、開催日:2015年7月27-29日、開催地:ダナン大学):本学や拠点大学の教員、学生の他、本事業に関心をもつベトナム国内やアジア地域の大学関係者、日本の他大学関係者や企業関係者、ベトナム大使館などを含め134人が参加。</p>

セミナーの運営組織	<p>本事業の運営担当を含む本大学院におけるアジア地域の活動連携と推進する「アジアプラットフォーム部会」（提案時は「地球環境学連携拠点委員会」）をH25年度より月一回開催し、効率的・効果的な連携と運営をおこなってきた。3回の国際シンポジウムについても、本部会を中心にベトナム連携大学と協力し、場所、期間、内容等の情報提供を速やかにおこなうことができた。また、開催時には相互理解を幅広く行えるように、各研究者の事項紹介資料や研究活動を紹介する予稿集をまとめる等内容の充実に努めた。</p>		
開催経費 分担内容 と金額	日本側	<p>内容</p> <p>外国旅費</p> <p>配布資料</p> <p>その他(バスレンタルなど)</p> <p>外国旅費・謝金等に係る消費税</p> <p>合計</p>	<p>金額</p> <p>1,786,500円</p> <p>201,091円</p> <p>901,476円</p> <p>134,027円</p> <p>3,023,094円</p>
	()側	内容	
	()側	内容	

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣期間	用務・目的等
フエ大学・准教授 ／学長・Le Van An	日本・京都・ 京都大学	(12月10日 ～12月14 日)・5日	12月11-14日開催の「環境学分野における教育・研究・ビジネスの国際協働に関わる会議」への出席と今後の連携に関する意見交換
ハノイ工科大学・ 准教授／学部長・ Huynh Trung Hai	日本・京都・ 京都大学	(12月10日 ～12月14 日)・5日	12月11-14日開催の「環境学分野における教育・研究・ビジネスの国際協働に関わる会議」への出席と今後の連携に関する意見交換
ダナン工科大学・ 准教授／学部長・ Tran Van Quang	日本・京都・ 京都大学	(12月10日 ～12月14 日)・5日	12月11-14日開催の「環境学分野における教育・研究・ビジネスの国際協働に関わる会議」への出席と今後の連携に関する意見交換
チャンパサック大 学・講師・Thongsay Sychanh	日本・京都・ 京都大学	(12月10日 ～12月14 日)・5日	12月11-14日開催の「環境学分野における教育・研究・ビジネスの国際協働に関わる会議」への出席と今後の連携に関する意見交換
王立農業大学・ 教授／学長・ Ngo Bunthan	日本・京都・ 京都大学	(12月10日 ～12月14 日)・5日	12月11-14日開催の「環境学分野における教育・研究・ビジネスの国際協働に関わる会議」への出席と今後の連携に関する意見交換

7-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応
該当なし

8. 平成27年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	四半期	日本	ベトナム (フエ)	ベトナム (ハノイ)	ベトナム (ダナン)	ラオス	カンボジア	タイ	合計
日本	1		(1/2)	()	()	(1/2)	(1/2)	(3/9)	0/0 (6/15)
	2		(1/2)	()	11/40 (7/85)	(1/2)	(2/7)	(5/13)	11/40 (16/109)
	3		(1/6)	1/2 ()	2/4 (6/160)	(1/6)	(1/4)	(6/14)	3/6 (15/190)
	4		(5/31)	(4/23)	(6/70)	()	()	(12/21)	0/0 (27/145)
	計		0/0 (8/41)	1/2 (4/23)	13/44 (19/315)	0/0 (3/10)	0/0 (4/13)	0/0 (26/57)	14/46 (64/459)
ベトナム (フエ)	1	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()		()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	2/10 ()		()	()	()	()	()	2/10 (0/0)
	4	(10/104)		()	(1/1)	()	()	()	0/0 (11/105)
	計	2/10 (10/104)	0/0 (0/0)	0/0 (1/1)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/10 (11/105)
ベトナム (ハノイ)	1	()	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()		()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	3/15 ()	()		()	()	()	()	3/15 (0/0)
	4	(3/26)	()		()	()	()	(2/2)	0/0 (5/28)
	計	3/15 (3/26)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (2/2)	3/15 (5/28)
ベトナム (ダナン)	1	()	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()		()	()	()	0/0 (0/0)
	3	2/9 ()	()	()		()	()	()	2/9 (0/0)
	4	(6/47)	()	()		()	()	()	0/0 (6/47)
	計	2/9 (6/47)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/9 (6/47)
ラオス	1	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	1/3 ()		()	()	1/3 (0/0)
	3	1/5 ()	()	()	()		()	()	1/5 (0/0)
	4	()	()	()	()		()	()	0/0 (0/0)
	計	1/5 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	1/3 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/8 (0/0)
カンボジア	1	()	()	()	()			()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	1/1 ()			()	1/1 (0/0)
	3	1/5 ()	()	()	()			()	1/5 (0/0)
	4	()	()	()	()			()	0/0 (0/0)
	計	1/5 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	1/1 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	2/6 (0/0)
タイ	1	()	()	()	()			()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	3/6 ()			()	3/6 (0/0)
	3	3/17 (1/4)	1/2 ()	()	()			()	4/19 (1/4)
	4	()	()	()	()			()	0/0 (0/0)
	計	3/17 (1/4)	1/2 (0/0)	0/0 (0/0)	3/6 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	7/25 (1/4)
合計	1	0/0 (0/0)	0/0 (1/2)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (1/2)	0/0 (1/2)	0/0 (3/9)	0/0 (6/15)
	2	0/0 (0/0)	0/0 (1/2)	0/0 (0/0)	16/50 (7/85)	0/0 (1/2)	0/0 (2/7)	0/0 (5/13)	16/50 (16/109)
	3	12/61 (1/4)	1/2 (1/6)	1/2 (0/0)	2/4 (6/160)	0/0 (1/6)	0/0 (1/4)	0/0 (6/14)	16/69 (16/194)
	4	0/0 (19/177)	0/0 (5/31)	0/0 (4/23)	0/0 (7/71)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (14/23)	0/0 (49/325)
	計	12/61 (20/181)	1/2 (8/41)	1/2 (4/23)	18/54 (20/316)	0/0 (3/10)	0/0 (4/13)	0/0 (28/59)	32/119 (87/643)

8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
()	()	()	()	0/0 (0/0)

9. 平成27年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	1,172,700	
	外国旅費	3,748,443	
	謝金	0	
	備品・消耗品 購入費	0	
	その他の経費	1,178,167	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	300,690	
	計	6,400,000	
業務委託手数料		640,000	
合 計		7,040,000	

10. 平成27年度相手国マッチングファンド使用額

該当無し